

中学校と高等学校の違い

皆さん、中学校での卒業式を終え、晴れて4月から高等学校に進学することになりました。今年の年度末は、新型コロナウイルス感染症のまん延防止のため、学校が臨時休業になり、卒業式も在校生だけの出席になったのではないのでしょうか。中学校と高等学校では、どのように違うのかを考えてみましょう。

皆さんの通っていた中学校は、学校教育法第45条に「中学校は、小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育を施すことを目的とする。」と記されています。これに対して高等学校は、学校教育法第50条に「高等学校は、中学校における教育の基礎の上に、心身の発達及び進路に応じて、高度な普通教育及び専門教育を施すことを目的とする。」と記されています。学校教育法上の違いからもわかるように、中学校は義務教育で普通教育を施す教育機関なのに対して、高等学校は義務教育ではなく、普通教育及び専門教育を施す教育機関なのです。

中学校は法的には小学校同様に義務教育であり、高等学校は義務教育ではありません。ですから高等学校では、退学や停学という処分が科せられることがあります。高等学校の方が中学校より大人に近い扱いをされ、より社会化が促されるのです。また、高等学校は学年制あるいは単位制による幾分の違いはありますが、履修科目や必修科目を修得できないと、3年間で卒業できなくなることもあります。

本校は年次進行型の単位制高校なので履修修得できない科目があっても、年次は2年次、3年次と進行していきます。しかしながら、必修科目を落としたり、卒業要件の単位数を修得できなかったりすれば、3年での卒業はできなくなります。4年次、5年次ということもあり得ます。ですから、単位制高校だからといって、安易に履修を放棄することはできません。

高校と中学校の勉強を比較してみましょう。例えば、中学校数学で1年の時に学習するのは「数学1」ですが、高校の場合は「数学Ⅰ」と「数学A」となります。高校の数学では、予習をして授業に臨まないと、ついていけなくなります。高校の数学は、一步一步の積み重ねであるため、公式の暗記や計算だけでは不十分です。単元を十分理解し、論理的な思考で解答しなくてはいけないものが多いのです。また、英語については、中学校英語では文法を理解すれば限られた語彙数で長文読解や英作文ができたと思いますが、高校英語ではコミュニケーション英語、英語表現など複数の科目があり、文法を理解すれば長文読解や英作文に対応できるわけではありません。

4月からの高校生活に慣れ、自らの次のステップに向けて勉学や部活動等に励んでください。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんが、この清水ヶ丘の地で3年間学び、今日を迎えたことに、教職員を代表して心から祝意を述べさせていただきます。また、今日の卒業式にご参加することができなくなった保護者の皆さんに、祝意を述べると共に、本校の教育活動にご理解、ご支援をいただき、心から御礼を申し上げます。

今回の卒業式は、新型コロナウイルス感染症のまん延防止の関係で、卒業生のみのも式となりましたが、皆さんや、本来、ご参加いただく保護者、関係者、来賓の方々のお気持ちを察すると、校長としては遺憾でなりません。

さて、皆さんは、平成29年4月に横浜清陵高等学校第1期生として入学し、元号も改まった令和2年3月2日の今日、横浜清陵高等学校第3回生として卒業していきます。校長は、総合学科から普通科に改編される本校を、皆さんと一緒に歩いて横浜清陵高等学校の基礎を創ってきました。

人生100年時代と言われますが、私は皆さんより先に朽ちていきます。私の見る夢は、この地に50年後、100年後にも学び舎が聳え立っていることです。神奈川県は、第2次ベビーブームの高校入学期に合わせて新設校を100校建設し、最盛期には166校もの県立高校がありました。現在、子どもの数が減少し、県立高校改革により改編・統合が行われ142校になりました。近年の高校入試では、平均倍率は1.20倍を切り、定員割れを起こしている学校は少なくありません。そのようななか、本校は改編後1.3倍～1.5倍という倍率を残しています。本校の現在の人気は、あなたたちの代からスタートしたのです。皆さんは、校名も校歌も決まらず、9月まで学校案内も配布できず、教育内容も見えにくいなか、本校を選んで受検し、入学してきたのです。あなたたちのフロンティアスピリットに、校長の私は感服しているしだいです。

「横浜清陵」という伝統、ブランドを創りあげるのは、横浜清陵高等学校の第1期生として入学し、今日、卒業していく貴方たちです。皆さんが第1期生として自らの新しい道で励み、各界で活躍することが、「横浜清陵」という伝統、ブランドを創りあげていく先導者になるのです。それに後輩たちが続いて歩むことになるのです。横浜清陵高等学校に入学した1期生の皆さんの活躍が、この学校の存続にも関わっていくのだと思います。今後、県立高校の在り方が問われ、再編・統合のようなことがあっても、この地に横浜清陵高等学校の学び舎が聳えていると、私は信じています。

皆さんと過ごした3年間を振り返って、横浜清陵高等学校として更なる学校づくりに、今後も精進してまいります。卒業生の皆さん、本当にありがとうございました。

心から皆さんのご活躍を祈念しまして、最後に「私には夢があります。それは横浜清陵高校が永遠に聳え立っていることです。」というメッセージを贈り、私からの祝辞とさせていただきます。